

2015 年度 小委員会活動成果報告

(2016 年 2 月 5 日作成)

小委員会名	雪荷重・対雪設計小委員会		主 査 名：高橋 徹 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)		委員長名：緑川光正 主 査 名：高田毅士
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2017 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>雪問題に対応した設計のあり方を検討し、正しい雪対応策を社会に広めることを目的とする。</p> <p>初年度：雪荷重による建物被害調査を継続的に行って分析し、対雪設計に生かす。 2 年度：最新の知見に基づいて「建築物荷重指針」の改定を行い、解説を執筆する。 3 年度：上記指針を補完する関連資料集を執筆して発刊する。 4 年度：上記資料集に基づいて講習会を開催する。(荷重運営委員会に協力)</p>		
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：高橋 徹(千葉大学) 幹事：堤 拓哉(北方建築総合研究所) 千葉隆弘(北海道科学大学) 委員：和泉正哲(大崎総合研究所) 大塚清敏(大林組) 菊池浩利(清水建設) 小坂橋裕一(日建設計) 小竹達也(大成建設) 桜井修次(北海学園大学) 苫米地司(北海道科学大学) 富永禎秀(新潟工科大学) 中島 肇(日本大学) 前田博司(-) 三橋博三(東北大学)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<p>降雨を伴う雪荷重の評価 WG：</p> <p>・設計実務者を中心に構成し、降雨を伴う雪荷重の実態把握と対策方法について小委員会と一体となって議論を行う。</p>		
2015 年度予算	200,000 円	<p>ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：http://news-sv.ajj.or.jp/kouzou/s25/</p>	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 『建築物荷重指針を活かす設計資料 1』
講習会	1. 建築物荷重指針を活かす設計資料 1 講習会 参加者数：東京 194 名、大阪 92 名
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 降雨を伴う屋根雪荷重に関する実験の知見を収集した。</p> <p>2. 2016 年寒候期も、各地で雪荷重による屋根の崩落が報告されている。引き続き情報収集に努め、対雪設計につなげたい。</p> <p>3. 「建築物荷重指針を活かす設計資料 1」は予定通り刊行され、今年度内に講習会を開催するところまで漕ぎ着けた。</p>
委員会活動の問題点・課題	1. 委員会の性格上地方在住者が多く、規定どおりの旅費を支給すると委員会開催 1 回で予算を使い切ってしまうため、開催回数が減っている。2016 年度は荷重指針講習会実施分の予算が追加される予定なので積極的に開催したい。